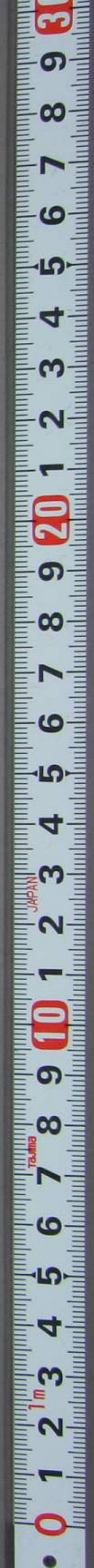


大  
女  
宮

紙幣銷却二付第二ノ意見書  
宇川盛三郎譯  
山崎直胤閱





紙幣銷却ニ付第二ノ意見書

閣下ヨリ更ニ御注意ヲ蒙リシ次第ヲ留メサリシハ残念ナリキ何トナレハ若之ヲハ今拙者ノ為スヘキ答辨ヲシテ今一層簡單ニ今一層秩序アラシメ得タル可ケレバナリ。

拙者ハ左ノ趣意ヲ以テ既ニ前日陳述シタル所ノ紙幣漸次銷却法ニ對スル最モ大ナル駁説ト見做ナリ即チ紙幣漸次銷却ヲ執行セン為メ毎年派通セシムル所ノ正貨ハ日本ニ止マラスシテ輸出入ノ差ヲ補ハシタメ常ニ海外ニ輸出スベシ故ニ日本ノ景況ハ依然トシテ今日ノ如ク悪シキ有様ニシテ止ルヘシ此ノ駁説ニ引續キ紙幣固有ノ弊害ニ付キ貿易紹介物タル通貨上ニ於テ常ニ差額アル二個ノ相場ヨリ起ル

大正十一年四月  
大隈侯爵寄



不幸ナル結果是ニ正貨ニ立戻ルハ工業商業ニ對シテ起ル所ノ利益ニ付キ種々ノ総論ヲ承リタリ  
拙者ハ先ツ第一ノ駁説ヨリ論辨スヘシ  
輸出入ノ差ハ正貨ヲ以テナラデハ之ヲ償フテ能ハサルモノニシテ日本ノ外國貿易ニシテ輸入ノ輸出ニ超過スル間ハ其差ヲ補フ丈ノ正貨ハ常ニ海外ニ流出スヘキト固ヨリ然リトス

然レモ今要トスル所ハ紙幣漸次銷却法ニ於テ輸入ヲ倍々増スヘキヤ又ハ減スヘキヤ紙幣全額銷却法ニ於テ倍々輸入ヲ増スヘキヤ又ハ減スヘキヤヲ識別スルニアリ

反對説ヲ始メテ聞キ得タル中ニ當リ紙幣銷却法ノ奈何ハ貿易輸出入ノ差額上別ニ其感動ヲ及ホスナシ

ト思考シタリシカ今日ニ至リテモ猶此ノ如シト思考スルナリ

輸出入ノ多寡ハ正貨ノ多寡ニ因ルヨリモ寧ろ賣買國各自ノ需要ニ因テ定マルモノナリ正貨ハ唯物價ニ其感動カヲ及ホスヲ以テ貿易上ニハ間接ノ感動カナラテハ及ホサ、ルナリ

若シ日本ニ於テ正貨ノ寡キ時ハ貨物ヲ輸入スル外國人ニ於テ其得ル所ノ代價ハ必ス廉直ナラン此ヲ他言スレハ或ハ若干ノ金額ニ對シテ割合ニ多クノ貨物ヲ與ヘサルヲ得サルヘシ此レニ反シテ正貨ノ多キトキハ其得ル所ノ代價ハ高直ニシテ或ル若干ノ金額ニ對シテ与フ所ノ貨物ノ量割合ニ寡ナカラン是即チ經濟上及ヒ貿易上ノ自然ノ法ナリトス

日本ニ於テ向後モ仍ホ現今ノ有様ノ如ク正貨ノ量寡  
ナシト假定セシニ外國商人ニシテ其貨物ヲ日本ニ賣  
ルルハ之ヲ正貨ノ量多キ他ノ國ニ賣ルヨリモ少ナキ  
正貨ヲ得ヘシ故ニ日本ノ正貨ヲ其自國ニ輸出スルニ  
於テノ利益ハ自ラ寡少ナルベシ何トナレハ其自國ニ  
著シタル日本正貨ノ價格ハ之ヲ日本ニ於テ使用スル  
ヨリモ稍々少ナク加之運送費ヲモ要スレハナリ  
此レニ及シテ今日日本ニ於テ外債ヲ起シ正貨ノ量ヲ多  
カラシメタリト假定セシニ外國品ノ購買者ハ貨物ノ  
同シキ數量ニ對シ正貨ノ多量ヲ与ヘサルヲ得ス故ニ  
外國輸入者ハ此ノ正貨ヲ其量稍々寡ク其價稍々貴キ  
自國又ハ他ノ外國ニ輸出スルニ於テ利益アルヘシ  
果シテ前段ノ如クナル片ハ如何ナル場合ニ於テ日本

ニ貨物ヲ輸入スル外國人ハ日本ノ貨物ヲ購買シ之ヲ  
其自國ニ輸出スルニ於テ寡モ利益アル哉ヲ查覈セン  
ニ此レ亦日本ニ於テ正貨ノ量寡キトキニ於テ利益アル  
ルヲ突見スルナリ  
譬へハ今一外國人アリテ日本ニ原價壹万弗ノ毛綿織  
物ヲ輸入シタリト假定セシニ此壹万弗ハ日本ニ於テ  
凡ソ壹万四千円ノ價ヲ有スルヲ以テ乃チ之ヲ以テ日  
本ノ產物ヲ購買シ之ヲ輸出スルニ於テ利益アルヘシ  
此ニ及シ右壹万弗ノ價ヲシテ唯壹万四千若クハ其近傍  
ナラシメハ之ヲ以テ日本產物ヲ購買シ之ヲ輸出スル  
ニ於テ大ニナル利益ナカルヘシ  
故ニ正貨ノ寡少ナルハ日本ニ取りニツノ好結果アリ  
第一ニハ日本ノ正貨ヲ其質ノ低正貨ノ稍々寡ナキ外

國ニ輸出スルニ於テ利益ナカラスニ第一ニ是ヲ紙幣ニ換ヘ此ノ紙幣ヲ以テ日本産物ヲ購買スルニ於テ利益アラシムル此レナリ

又此レニ反シ日本ニ於テ正貨ノ量多キハ外國人ニ於テ貨物ヲ輸入シ之ヲ高價ニ賣拂ヒ以テ正貨ヲ得之ヲ正貨ノ量少キ外國ニ輸出スルニ利益アラシメントス此レ即チ日本ノ避ケ道レント欲スル所ノモノナルベシ

拙者ニ對スル高貴ナル及對論者ニ同意ヲ表セントノ渴望アルニ係ハラス到底此方按ヨリ他ノ方案ニ決著スルヲ能ハサルナリ今日日本ニ於テ外債ヲ起スハ日本ニ入来スル正貨ノ量夥多ニシテ更ニ一層大ニナル貨幣ノ輸出ヲ引起サシメ更ニ一層大ニナル外國産物

ノ濫入ヲ来タスヘシ而シテ外國輸入者ハ其支拂ヲ受ルニ日本産物ヲ以テスルヨリモ正貨ヲ以テスルヲ望ムベシ

且拙者ノ思考スル所決シテ輸出入ノ差ヲ補フニ必用ナル正貨ノ量ナラテハ流通セシメスト云フニアラス拙者ノ冀望スル所ハ少クモ此差ノ二倍若クハ三倍ヲモ流通セシムルニ在リ(但シ其詳悉ハ本書ノ終ニ論スル所ノ手續及ヒ方法ヲ参考スヘシ)

大蔵省ニ於テハ貨物各年輸出入ノ差及貨幣并金銀地金ノ各年輸出入ノ差ニ付確實ナル調査備ハリタルナラン然ラハ陸軍海軍及ヒ諸公署ノ為ニ買入ル、官用品ハ輸入中何程ノ割合ヒヲ占ムルヤヲ區別スルハ最緊要ナルモノニシテ且貨幣并金銀地金輸出ノ輸入ニ

超過スル高ハ貨物ノ輸入ノ輸出ニ超過スル高ト殆ト  
相合スル哉否ヤヲ知ラサル可ラス  
去ル五月中ノ貿易ヲ略記スル去ル廿三日刊行ノエ  
ー、ジ、エ、ジャッポン新聞ヲ見ルニ貨物輸入ノ輸出ニ超過  
スルト百九拾五万圓ニシテ貨幣美金銀地金輸出ノ輸  
入ニ超過スルト貳拾貳万七千八百圓ナリトアリ此数  
ノ確實ナルヤ否ハ拙者モ疑フ所ナレド五月中ノ貨幣  
輸出ハ五月中ノ貨物輸入ヲ補フモノニアラスシテ早  
クモ去ル一月乃至二月頃ノ輸入ヲ補フモノナルハ明  
白ナリ故ニ一ケ年ヲ以テ此レケ計算ヲナスハ貨物  
ノ輸入ト貨幣ノ輸出トノ間自ラ相近寄ルトアルヘシ  
拙者ハ数年間貨幣輸出ノ平均ニ據リ以テ流通スヘキ  
ニ倍若クハ三倍ノ正貨ヲ計算スベシ

猶又執行アテントヲ冀ヒ拙者モ其結果ヲ知ラントヲ  
望ム一ツノ調査アリ即チ洋銀若クハ円銀ト紙幣トノ  
差ノ多寡ハ貨物輸入ノ輸出ニ對スル超過ト貨幣美金  
銀地金輸出ノ輸入ニ對スル超過トニ其景況ヲ及ホシ  
タルカヲ知ル是レナリ数年前ニハ正貨ト紙幣ト殆ト  
同價ナル年モアリ其後正貨ト紙幣トノ差遞増シ又ハ  
遞減シタルトモアリ其増減シタル数多ノ永キ期節ア  
リタルカ故ニ今此調査ヲ為スハ甚タ容易ナルトナル  
ヘシ且又日本開港場ト外國諸市場トノ為換相場ヲモ  
参考セサル可ラサルナリ

貨幣輸出ノ危難ニ根據タル家モ大ニナル駁論ニ對シ  
テ拙者ノ意見ヲ約言スレハ此危難ハ正價ノ多量ヲ以  
テスルヨリモ正貨ノ寡量ヲ以テスル方最モ少ナクシ

テ紙幣ヲ一時ニ引替エ其引替ノ為世上ニ顯出シタル  
正貨ハ其輸出ヲ一層盛ナラシムヘシト斷言スルナリ  
第二ニ述ヘラレタル閣下ノ勘考ハ第一不換紙幣ノ弊  
害ニ付キ、第二正貨及ヒ紙幣二個ノ相場ヨリ起ル不幸  
ナル結果ニ付キ、第三正貨ニ立戻ル片ハ之ヨリシテ農  
業工業ニ對シテ起ル所ノ利益ニ付キテノ總論ニ関ス  
ルモノナリ  
第一ノ點ニ就テ不換紙幣ノ危難ト云フハ其発行ノ格  
外夥多ナルトキカ若クハ實用又ハ冗費ノ為メニ之ヲ  
限リナク増發シ且其増發ノ事ヲモ委細ニ知ラシメサ  
ルカニ因テ國民ニ恐レヲ抱カシムルニアリ(此ニ述フ  
ル所ハ一般ノ論ニシテ特別ニ日本ヲ指スモノニアラ  
ス)

故ニ日本ニ於テモ此ノ危難ハ日本政府ニ於テ紙幣ヲ  
發行シタルハ皆世人ノ能ク承知スル非常危難ノ場合  
ニアラサルハナク而シテ今後更ニ増發セサルヘシト斷  
然決定シタルニ於テハ著大ナルトナカルヘシ  
然レ氏方令ハ勿論數年以來田銀ト紙幣トノ相場ニ洪  
大ナル差アリ此ヨリ起ル所ノ弊害ハ實ニ洪ヒナルモ  
ノナレハ此ヲ醫治セサル可ラス次テ論究スヘキ第二  
ノ點即チ是レナリ  
拙者ニ於テハ田銀ニ對シ紙幣ノ下落ハ紙幣ノ量夥多  
ニシテ田銀ノ量乏ナルニ起因スルトト常ニ信シタ  
リシカ今日モ猶如此信スルナリ此ノ如キ顯象ハ金銀  
兩貨ヲ用ユル諸國ニ於テモ亦タ金貨ト銀貨トノ間ニ  
起ル所ノモノニシテ現ニ日本ニ於テモ金銀兩貨ヲ比

較スル片ハ自ラ其差異アリ而シテ日本ニ於テ金銀兩  
貨ノ差額些少ナルハ蓋シ兩貨共ニ其量僅少ナルニ因  
テナリ

然レ氏紙幣ト銀貨トノ差ニ至テハ實ニ洪大ナリ是レ  
即チ紙幣ノ量銀貨ノ量ヨリ多キト七八倍ナルカエヘ  
ナリ

而シテ此ノ差ヲ減少センニ二個ノ方法アリ即チ紙幣  
一部分ヲ切斷スルカ或ハ銀貨ヲ増加スルカニ在リ若  
此ノ二個ノ方法ヲ同時ニ執行セハ支レヨリ起ル所ノ  
結果ハ二倍ナルヘシ

斯ク冀望スル所ノ結果ヲ充分ニ得ンカタメニハ此等  
ノ處分法ヲシテ皆世ニ公ニセサル可カラス何ントナ  
レハ此等事件ニ就テハ世上ノ信憑其功ヲ来タス最モ

大ニナルモノニシテ投機ノ如キハ唯ニ既ニ功績ヲ顯  
ハシ又ハ功績ヲ期望スル所ノ善事ヲ減スルノミナラ  
ス動モスレハ害悪ノ事ヲシテ益々洪大ニ聲言セント  
スレバナリ

然レ氏論者ハ曰ク現今流通スル所ノ紙幣ノ量ハ商業  
取引上ノ需用ニ超過セシテ且封建時代ニ流通セシ  
金貨幣ノ量ヨリ多カラスト又曰ク今日ニ在ラハ租稅  
ヲ拂フニ昔日ノ如ク天産(米麥等)ヲ以テセシテ皆貨  
幣ヲ用ユルモノナレハ遙カ多量ノ通貨ヲ要スヘキナ  
リト此レ甚ク至當ナル論ト云フヘシ

然ルニ今此ニ忘却ス可ラサル考案アリ往時ニ在テハ  
人民各個ニ於テ常ニ國內ニ發行シタル通貨ノ一部分  
ヲ貯藏シタリ而シテ其貯藏ニ係ル丈ケハ乃チ流通貨



幣ハ減シタルモノナレハ從テ通貨ノ下落ヲ防止シタルナリ今日ニ在テハ紙幣ヲ貯藏スル者ナク發行シタル所ノ紙幣ハ皆常ニ流通上ニ現在ス而テ人々皆紙幣ヲ貯藏センヨリ寧ロ此ヲ以テ貨物、消費物、奢侈物、土地或ハ家屋等ヲ買入ル、一ヲ冀望スルカ故ニ供求ノ紙幣常ニ多ク從テ其下落ヲ來セルナリ  
此ニ至リ拙者ハ一ノ問題ヲ起スヲ得ヘシ但此ヲ起スノ許可アリタルカ故ニ

拙者ハ政府ノ國庫ニ正貨何程ノ貯藏アル<sup>一</sup>ノ談話ヲ承リタリ然レ<sup>氏</sup>卒常國庫ニ不絶存在スル所ノ紙幣ハ何程ナル哉ヲ知ル<sup>一</sup>モ亦タ要用ナリ  
譬へハ令政府ニ於テ國內平定ノ後使用セサル所ノ紙幣貳千万圓アリタランニハ此レ即チ流通上必要ナル

額ニ超過シタル紙幣貳千万圓アル証據ノ一ト云フヘシ

拙者ハ此ノ貳千万圓ヲ直チニ切斷スヘシト云フニアラス何トナレハ一大國ニ於テハ常ニ不意ノ事件ヨリ起ル臨時ノ需要アルモノナレハナリ然レ<sup>氏</sup>拙者ハ此紙幣ヲ五分ニ毎年其五分ノ一ヲ切斷セン<sup>一</sup>ヲ上言スヘシ而テ此切斷アリシ<sup>一</sup>ヲ世ニ公ニスル<sup>一</sup>ハ忽チ紙幣ハ銀貨ニ對スル現今ノ差ノ五分ノ一乃至二三ヲ騰貴スヘキハ必然ナリ

拙者ハ此ノ第二ノ點ニ就キ拙者ノ意見ヲ約言スレハ紙幣ト銀貨トノ差ハ憂フヘキモノナレ<sup>氏</sup>自然ノ方法ニ據リ之ヲ減却スルハ甚タ難キモノニアラス<sup>一</sup>テ國庫ニ對スルモ國ニ對スルモ紙幣全額ヲ銷却スル法案

ノ如ク困難ナルモノニアラサルヘシト断言スルナリ  
総論第三點ノ主旨ハ紙幣ノ流通ハ日用品ノ騰貴ヲ来  
タシ農業工業ノ進歩ヲ妨グ故ニ紙幣ノ引換ハ物價ノ  
下落ヲ来タシ國家ノ富源ノ開進ヲ来タスト云フニア  
リ

批者ハ左ニ右ノ二點ヲ分別シテ論辨スヘシ

第一 物價ノ騰貴

米炭薪油等ノ如キ日用品物價ノ此數年來非常ニ騰貴  
シタルヲハ確乎タリ而シテ爰ニ一ツノ困難ナルハ此物  
價騰貴ノ源因ハ果シテ何ニアル哉ヲ知ルニアリ然レ  
ト決シテ此レヲ以テ天産ノ僅少ナルニ因ルトナスヘ  
カラス何トナレハ事實ニ於テ此數年來ノ收穫ハ皆充  
分ナリシヲ以テナリ

物價騰貴ノ何分カハ米ノ投機賣買ニ因ルモノトスル  
ヲ得ヘシ而シテ又米穀所持人ノ中ニ於テモ其價ヲ騰  
貴ベシメンカタメノ術計アリタルニ消費者ニ於テハ  
此術計ニ反對スルノ氣カナク何ノ論モナク米穀所持  
人ノ望ム低ノ價ヲ承知シタルハ賣主ノ冀望ヲシテ益  
々增長セシメタルナラン

消費者ノ窠モ良キ抗抵方ハ時々横港ニ輸入スル所ノ  
支那米ヲ消費スルニアレト其滋味悪シトナシテ尙  
石ニ付二三円廉價ニ属スルニ係ハラス誰レアツテ之  
ク消費ヲナスモノナシ而シテ支那米ノ消費益々盛ニ  
シテ之ヲ香港西港等ヨリ輸入スル益々盛ナレハ西國  
米價ノ差モ從テ倍々大ニナラン批者ニ於テハ曾テ日  
本人中支那米ヲ食スル片ハ疾病ニ罹ルト云フ者アル

ヲ聞キタレ氏之レ全ク想像ニ関スルモノナリト云ハ  
サル可カラス

然レ氏唯投機賣買ノミヲ以テ米價騰貴ノ原因トナス  
ヘカラス拙者ノ思考スル所ニテハ耕作人ニ於テモ重  
キ租税ヲ拂ハサルヲ得サルヲ以テ租税ヲ納メタルモ  
其勞ニ對シ猶ホ何分カノ利益ヲ得ンタメ米價ヲシテ  
騰貴セシメタルナルヘシ

然ラハ米價ノ騰貴ハ果シテ耕作人ノ方ヨリ始リタル  
カヲ知ラザルヘカラス果シテ然ラハ此レ最自然ニ最  
當然ナルモノナレハ此レヲ醫スルニ此又最モ當然ナ  
ル二個ノ藥劑ノ外アルナキナリ即チ地租ヲ減額ス  
ルカ或ハ農業者ヲシテ昔時ノ如クニ地租ノ全額若シ  
クハ其一部ヲ米ニテ納メシムルニアリトス

地租ノ減額ハ現今ニ於テ行レ難キモノアルヘシ何ト  
ナレハ既ニ明治十年ノ春ニ於テ其六分ノ一ヲ減シ百  
分ノ三ヲ百分ノ二半迄ニ減下セシメタルハナリ  
天産ヲ以テ租税ヲ納メシムル法ニ立戻ルナリ之ヲ施  
行スルニ於テ困難少ナカラサルヘシ然レ氏食用産物  
ノ大ニナル部分ヲシテ政府ノ手ニ在ラシムルハ其  
價ノ甚タ騰貴シタル時ニハ之ヲシテ下落セシムル  
能フヘキモノトス

然レ氏此ニ至テ又二個ノ駁論顯出スヘシ其一ハ政府  
ニ上納セシメタル米ノ量丈ハ暫時ナルモ市場ヨリ引  
去ラレタルモノナルカ故ニ現今ノ米價ニ對シ更ニ新  
シキ騰貴ヲ來タスヘシ此時ニ當テ投機者ノ占賣ハ前  
時ヨリ少量ノ米ニ對スルモノナレハ之ヲ行フナリ一層

容易ニシテ政府再々其米ヲ市場ニ賣出スハニ於テノ  
功能ハ此新源因ヨリ生シタル新騰貴ヲ止ムルノミニ  
アツテ仮令再々現今ノ有様ニ立戻ラサルモ之ニ遠カ  
ラサル位置ニ立戻ルナラント云フニアリ  
其二ハ大蔵省ニ於テモ各々其需要アルモノナレハ常  
ニ其米ヲ市場ニ充分ニ糶買シ以テ之カ市價ヲ下落セ  
シメンコトヲ求メスレテ反テ時トシテハ市場ニ米價ノ  
下落ヲ来タスニ充分ナラサル少量宛ノ米ヲ賣出シ相  
場ノ騰貴ヨリ利益ヲ博センコトヲ求ムルカ如キノ弊ノ  
起生セサルヘキカラ恐ルニアリ  
此ニ反レ若政府ニ於テ市價ヲ下落セシメンタメ下落  
相場ヲ以テ其米ヲ賣出スハ此レ即チ人民ノ利益ニ  
適スルコトナレバ政府ノ歳入ニ於テハ不足ヲ生スルコ  
ト

アルヘシ此又邦國ノタメ一ノ困難ト云ハサルヘカラ  
ス  
今正貨ヲ以テ紙幣ヲ引換ユルハ其米價ニ對シテノ  
關係ハ如何カアル可キヤヲ考查スヘシ  
此事ニ就キ爰ニ起ル所ノ推測ヲシテ根据アラシメン  
ニハ先ツ物價ニ對シテ紙幣ノ感動力ハ如何カアルヘ  
キヤヲ發見セサルヘカラス  
紙幣ニシテ若シ物價ヲ騰貴セシムルナラハ此レ即チ  
紙幣ノ下落シタルカ故ナリ而シテ紙幣ノ下落シタル  
其原因唯一ツニシテ即チ現今ノ流通高甚ク以テ夥多  
ナルニ因ルナリ  
然レバ紙幣ノ流通高甚ク以テ夥多ナルト云フヲ辨駁  
シテ曰ク今日流通スル紙幣ノ高ハ往時封建代ニ於テ

流通セシ金銀貨并ニ紙幣ノ高ヨリ多カラスト然レモ  
流通上ヨリ隠蔽スル所ノ新古金銀貨ニ至テハ猶ホ日  
本中巨多アルヘシト云フ而シテ人口ニ對シ一般ノ需  
要ニ對シ流通正貨モ紙幣モノ量夥多ナルヤ否ヲ調査  
センニハ流通セサル所ノ通貨モ流通スル所ノ通貨モ  
合ヤテ勘考セサル可ラス

通貨ノ一部分ハ常ニ臆病ニシテ獲利ノ心ナク結局已  
レノ利益ヲ計ルニ暗キ人物ノ掌中ニ在テ其通貨ノ功  
用ヲナサ、ルモノアリ殊ニ經濟ノ思想普及セサル國  
ニ於テ政事上ノ變革ヨリ各人ノ利益ヲ轉動セシメク  
ル時ノ如キニ在テハ臆病ナル人ノ貯蔵ハ現在通貨ノ  
半ハヲモ吸入シ得テ唯他ノ半ハノミ世上ニ流通スル  
モノト推測スルヲ得ヘシ然ルモハ通貨ノ量寡クシ

テ物價ハ低廉ナルベシ何トナレハ通貨ハ其量寡キ丈  
其價從テ大ナルモノナレハナリ

然ルニ貯蔵ニ係ル通貨ノ量ヲ補ハンタメ政府ニ於テ  
其貯蔵ニ係ル文ノ紙幣ヲ発行スル時ニ於テハ既ニ正  
貨ヲ以テ成立ツ所ノ貯蔵アルカ故ニ此紙幣ハ決シテ  
貯蔵ニ用ヒラレサルモノナリ然ルモハ浮漂スル紙幣  
ノ量夥多ニシテ商業上ノ需要ニ超過シ既ニ貯蔵ニ於  
テモ其用ナケレハ貨物ヲ得ンカタメ之ヲ供給セサルヲ  
得ス從テ貨物ニ於テハ需要セラル、ト多ケレハ亦夕  
從テ其價騰貴スヘシ

故ニ今日ニ在テハ昔時ヨリ一倍ノ通貨アルモノトス  
即チ昔時ノ通貨ハ隠蔽ニ係リ不殖益ナリト雖モ其存  
在スルヤ明カニシテ即チ貯蓄ノ用ヲ成スモ是レ其一

ニシテ更ニ貯蔵ニ用ヒラレサル所ノ紙幣ナル新通貨  
是レ其二ナリ  
而シテ紙幣下落ノ原因ハ果シテ爰ニアリ其量流通ノ  
需要ニ超過スル即チ是レナリ  
然リ而シテ此下落タルヤ決シテ正貨ニアラスレテ紙  
幣タルニ因ルニ在ラス今暫ク数年前ニ於テ政府ハ隱  
蔽シタル正貨ノ埋伏ヲ補ハンタメ尙億貳千万円ノ紙  
幣ヲ発行セシテ其鑛山ノ産出又ハ他ノ方法ニ據リ  
三度ニ尙億貳千万円ノ金銀貨ヲ流通市場ニ投出シ得  
タリト假定センニ其物價ニ對スルノ結果ハ依然同様  
ナルモノニシテ紙幣ヲ発行シタルヨリ起リタル支ケ  
若クハ之レニ遠カラサルノ騰貴ヲ来シタルヘキハ拙  
者ノ確信スル所ナリ

然レ氏此場合ニ於テ起リ得ヘキ相違ノ原因ハ此正貨  
ノ一部ハ多分貨物ノ如クニ使用セラレ家具ニ鍍金ニ  
美術品ヲ製造スル等ノタメ之レヲ溶解スルコトアリ得  
ヘシト雖氏紙幣ニ至テハ之ヲ通貨ニ用ユルヨリ更ニ  
他ノ使用ノ途ナキナリ  
確トシテ動スヘカラサルト思考スル此ノ勸考日本ノ  
文体ナレハ謙遜シテ愚カナル此ノ勸考ト云ハシムル  
ナランハ拙者ヲシテ正貨ヲ以テ紙幣ト引換エルヨリ  
起ル所ノ感動力ハ如何カアルヘキ乎ノ問ニ向テ答辭  
ヲ得セシメタリ  
此紙幣引換ヨリ起ル所ノ感動力ハ仍ホ數年前政府ニ  
於テ紙幣ヲ発行スルノ代リニ正貨ヲ発行シタルヘキ  
中ノ有様ニ同シクシテ物價ハ依然騰貴シタルナラン

唯其異ナル所ハ餘裕ニ正貨ヲ工業又ハ美術ニ用ヒタルヘキニアリトス  
試ニ今年間ニ紙幣五千万圓ノ代リニ正貨五千万圓ヲ流通セシメヨ物貨ハ依然トシテ今日ノ有様ニ在ルナラン然レモ若シ僅少ニモセヨ物價ノ下落スルヲアラハ是レ臆病者ニ於テ猶又其貯藏ヲ増加シ從テ流通スル貨幣ノ量幾分カヲ減少シ又工業美術ニ於テモ正貨ノ僅少ナル部分ヲ家具等ノ用ニ供シタルニ因ルナルヘシ  
此レニ反シテ今若シ需要ニ超過スト認ムル紙幣ノ量ヲ引上ルナラハ物價ハ必ス下落スヘシ何トナレハ紙幣ノ量減少スレハ之ヲ供給スルヨリモ寧ロ需要セラル方多カル可ケレバナリ

第二 紙幣ノ流通ニ因リ農業工業ニ進歩上ニ起ル所ノ妨害

第三 正貨ヲ以テ紙幣ニ引換エルニ因テ國家ノ富源タル農業工業上ニ起ル所ノ改良  
拙者ハ右二個ノ思考上ニ猶豫スルハ無益ナルモラト信スルナリ何トナレハ此論者ハ汎漠ニ過キテ經濟ノ論議上ニ於テ常ニ困却ナルモノナレハナリ  
第二ニ掲記シタル妨害ニシテ果シテ真ナルモ此レ又紙幣ノ下落ニ因ルモノナリ而シテ第三ニ掲記シタル紙幣引換ヨリ起ルヘキ改良モ若シ正貨ノ量夥多ナル片ハ更ニ其功ナカルベシ仮令之レアルモ甚些少ナルベシ  
既ニ前陳シタル現今ノ害ヲ醫スヘキ新方法ヲ指示ス

ルノ前ニ猶ホ一應外國債ノ危難ナルヲ明記セサルヲ得ス

日本ト外國トノ交際上ニ於テ苟モ日本ノ利益ヲ外國ノ從屬ト為ス所ノモノハ日本人ノ精神之ヲ忌ミ嫌フ

トノ深キ拙者ニ於テモ能ク承知スル所ナルカ故ニ外債ノ考案ニシテ之ヲ断念セラレサルハ拙者ニ於テモ

以シク驚ク所ナリ

凡ソ外債ヲ起ス所ノ國ハ德義上ニ於ケルモ經濟上ニ於ケルモ其品位ヲ減少スルモノナリ外國ニ向テ其政略其施政其制度ヲ論議セシムルノ機會ヲ与フルモノナリ兎角外國ノ批評ニ係リ常ニ信用ノ如何ニ苦慮スルモノナリ又外債ヲ起スハ其國ノ貧窮其困難或ハ其國民ヨリ政府ニ對スル不信用ヲ自状スルモノナリ

外國トノ交際上ニ於テハ屢々過慮スル所ノ日本ナレハ爰ニ於テコソ外債ノ危難ニ就キ過慮スルハ竊モ當然ナルヘシト了解スルナリ

政事上及德義上ノ弊害ノ外ニ尚ホ又會計上ノ弊害アリテ此弊害タルヤ令一層大切ナルモノトス

外債ヲ起ス片ニ於テハ第一ニ利子ヲ拂フヲ要シ第二ニ元金ヲ銷却スルヲ要スヘシ而シテ止ムナクンバ政府ニ於テ極度ノ節儉ヲ行ヒ時宜ニ因レハ新租稅ヲ發行スルモ以テ毎年ノ利子ハ之ヲ拂ヒ得ベシト雖モ此此外債ヲ起スニ永キ期限ヲ以テスルヲ能ハサルモノナレハ甚タ永カラサル期限内ニ如何シテ其元金ヲ銷却シ得ル哉ニ至テハ更ニ了解セサル所ナリ

外國ヨリ借入レタル金額ハ紙幣ノ代リニ一度此ヲ流



通マシメタル以上決テ政府ノ手ニ在ラサルトヲ忘ル  
可カラス果シテ然レハ元金銷却ニ要スル正貨ヲ政府  
ハ如何シテ得ントスル哉  
正貨ニ立戻ル片ニ於テハ今日ニ埋伏スル所ノ日本新  
古金銀貨ノ一小部分ヲシテ再ニ顯出セシムルトアル  
モ此又常ニ政府ノ手ニ在ラサルモノトス  
此時ニ當ラハ政府ハ此等ノ金銀ヲ借入ル、ト能フヘキ  
ヤニアリ然レモ後日ニ於テ起サントスル負債ノ能ク  
成功シ得ルトノ慥カナラサル以上ハ決シテ現今ノ負  
債ヲ銷却スルニ後日他ノ負債ヲ以テスルトノ約ヲ結  
フ能サルナリ  
閣下ニ於テハ固ヨリ既ニ此ノ點ヲ考查セラタルト及  
ヒ元金銷却ヲ執行シ得ヘシト為スニ充分ノ見込ノア

ル、トハ拙者ニ於テモ疑ハサル所ナレモ拙者ノ見ル  
所ニヨレハ一ツノ大ナル困難アルモノトス負債ハ一  
國ニ取テモ一箇人ニ取テモ常ニ大危難ナルモノニテ  
譬へハ阪ノ滑カナル人ノ此ヲ降ルトノ甚タ容易ナル  
モ此ヲ昇ルトノ甚タ難キカ如シ而シテ負債ハ常ニ浪  
費ヲ勵マシ且ツ人ニシテ時々大ニナル財本ヲ有スル  
中ハ奢侈又ハ不殖産ノ費用ニ之ヲ支用スル屢々ナル  
モノトス  
然リ而シテ外國ニ於テ借入レタル金額ハ悉皆紙幣銷  
却ノミニ支用スルトト假定センモ此レ即チ拙者ノ所  
謂奢侈ニ屬スル事業ニシテ高貴ナル理財家モ自ラニ  
白状セラレザル一國ノ高慢心ニ窟モ多ク係ハルモノ  
ナリ而シテ其望ム所ハ日本ヲシテ紙幣國ニ在ラシメ

サル是レナリ然レ日本ヲシテ外國勿ラシムルノ方  
令一層尊ク令一層貴カラシ紙幣ハ内國丈ニ関スル  
ニテ恰モ一家ノ内事ナレトモ外債ニ至テハ決シテ然ル  
能ハサルモノナリ

外債ヲ起スモ拙者ニ於テハ之ヲ能ク了解シ且之ヲ贊  
譽ヲモナスヘキ只一ノ場合アリ實ニ殖産ノ費途譽ヘ  
ハ土地開墾道路開通鐵道建築等ノ事業ノ為メニ借リ  
入ル、モノ是レナリ此レ即チ日本ニ於テハ其資本充  
分ナラサル農業工業等ヲ進拔セシムル一ツノ方法ト云  
フヘシ

此ノ如キ<sup>外債</sup>外國ニ於テモ同意賛成ヲ得ヘク日本ニ取テ  
ハ毎年ニ支拂フ所ノ利子ヨリ多キモ決シテ少ナカラ  
サル利益ヲ生スヘク又其元金銷却ノ方法ヲモ仕度セ

シムヘク時宜ニ依レハ内國債(此時ニ至レハ容易ナル  
ニ至ルヘシ)ヲ起シ以テ其元金銷却ヲ補フヲ得ヘシ  
故ニ若シ日本政府ニ於テ既ニ外債ノ手續及ヒ方法ヲ  
得タルナラハ外債支用ノ目的ヲ變更シ以テ之レヲ起  
スヲ得ヘシ然ラハ日本人民ノ賛成ヲモ得ヘク債主ノ  
賛成ヲモ得ヘシ

歐米何レノ國ニ於テモ其紙幣ヲ銷却セントタメ外債ヲ  
起サントシタルモノナシ伊太利澳地利ハ既ニ外債ヲ  
起シ從來仍ホ之ヲ起スヲアルヘシト雖モ其目的タル  
通路ノ擴張(又衰々我戦争ヲナス方法ノ擴張ニモ)ニア  
リシ故尙ホ後來モ其目的ナルヘシ然レモ此等各國ニ  
於テ其紙幣ヲ銷却セシカタメニ正貨ヲ外國ヨリ借リ  
入ル、業ノ下ハ決シテ思企セサル所ナルヘシ

拙者ハ今曩ニ既ニ閣下ニ一言シ置キタル者ニシテ現今ノ困難ヲ醫スルノノ簡單ニシテ且容易ナルニ様ノ内國債ノ段ニ立至リタリ

紙幣漸次銷却ノ手續方法

上ニ陳述シタル論辨ハ其目的トスル所左ノ四件ヲ証明スルニアリテ

其一正貨ノ輸出ハ正貨ヲ以テ紙幣ノ一部宛テ漸次引換エルニ因ルヨリモ正貨ヲ以テ紙幣ノ全額ヲ一時ニ引換エルニ因ル<sup>ル</sup>最モ恐ル可シトスル是レナリ  
其二正貨ヲ以テ紙幣ノ全額ヲ引換エルハ物價ニ對シ別ニ著シキ下落ヲ生セストスル是レナリ  
其三此等種類ノ事業ノタメニ外債ヲ起スハ國庫ニ取

ツテ其任甚重ケレハ其利益タル只自國ノ高慢心ヲ満足セシムルノ他アラサルナリトスル是レナリ  
其四若シ政府ニ於テ外債ヲ起スニ容易ナル手續ヲ得タランニハ此レニ與フルニ寧ロ道路開通、鐵道建築、農業工業ノ勸奨、鑛山開採等ノ如キ殖産カラ有スル費途ノ目的ヲ以テスヘシトスル是レナリ

此レ迄正貨ヲ以テ紙幣全額ヲ引換エルノヲ辨駁シタリト雖モ此レヲ以テ決シテ現今ノ景況ヲ改良スルノ方ヲ施サスシテ可ナリト云フニアラス  
拙者ハ吳々モ紙幣ノ漸次銷却法ヲ採用アラシムルヲ上言スヘシ

而シテ其方ハ同時ニ二様ノ手續ニ因ラサル可ラサル

モノトス即チ紙幣ノ幾分ヲ單簡ニ切斷スル其一ニシテ正貨ヲ以テ他ノ幾分ヲ引換ユル其二ナリ右ニ様ノ手續ヲ施行スルハ實ニ必要ナリトス假リニ今紙幣ノ幾分ヲ單ニ切斷スルノミニ限ルトスルハ二個ノ障碍ヲ出會スヘシ其一通貨ニ依リ成立スル所ノ交易ノ方法多少遠カラサル内ニ其需要ニ對シテ不充分トナルヘクシテ其二正貨ノ量ハ依然トシテ寡ク其貯藏ニ係ルモノモ世上ニ顯出スルノ勢ヲ得サルヘシ何トナレハ<sup>其</sup>量ノ僅少ナルニ因リ益々高貴ノ價位ヲ保有シ所持人ニ於テハ仍ヲ今日ト同シク此レヲ手放サ、ル<sup>下</sup>是レナリ然レ氏又若シ正貨ヲ以テ引換ヘ得ヘキ分部ノ紙幣ノミヲ銷却セハ此レ又紙幣ノ實價ヲ昂上セシムルニ於

テ其勢カ不充分ナルヘシ然ラハ二様ノ手續ヲ同時ニ施行シ得テ初メテ今日探求スル所ノ二様ノ利益ヲ視ルヲ得ヘキナリ因テ今同時ニ施行スヘキ二様ノ手續ヲ分別シテ之ヲ左ニ陳述スヘシ

第一 漸次紙幣ノ一部ヲ單ニ引上ル<sup>下</sup>

先ツ此ニ要トスル所ノモノハ毎年引上クヘキ紙幣ノ高ヲ定ムル是レナリ現今流通スル政府ノ紙幣(銀行紙幣)ハ此ノ限リニアラス)ハ其額十億万圓ナルカ故ニ二十ヶ年ニ悉皆之ヲ銷却センニハ毎年五百萬圓ヲ引上ルヲ以テ充分ナリトス此五百萬圓ハ之レヲ折半シテ其一半ハ單ニ引上ルニ

止マリ他ノ一半ハ正貨ヲ以テ引換エルヲ得ヘシ又ハ  
之レヲ分等シテ三百万円ハ單ニ之ヲ引上ケ貳百万円  
ハ唯<sup>引換</sup>單ニ之ヲ引上ケ三百万円ハ正貨ヲ以テ引換エル  
モ亦可ナリ

然ラハ此ノ引上ヲ為サンニハ如何スヘキ哉内國債ノ  
手續ニ據ラントスル乎

若シ政府ニ於テ常ニ流通セサル紙幣ノ巨額ヲ貯蓄ス  
ルヲアラハ特ラニ紙幣ヲ借り入レ是レケ利足ヲ拂フ  
ノ要ナシ仮令ハ毎月唯單ニ貳拾五万円ヲ切斷スヘシ  
然ルハ十二ヶ月即チ一ケ年ノ切斷高ハ三百万円ト  
ナルヘシ若又國庫ニ於テ紙幣ノ貯蓄少ク課税ニ據リ  
收入スル所ノモノハ悉皆國費ニ支用セラル、モノナ  
ルハ切斷スヘキ餘裕ノ高ヲ得ンニハ乃チ内國債ニ據

ルノ外他ニ方法ナカルヘシ

此内國債ニ就キ第一ニ利子ノ割合第二ニ銷還ノ方法  
第三ニ証書ノ種類等ハ如何スヘキヤ

### 第一 利子ノ事

此内國債利子ハ今日迄大藏省ニ於テ發行シタル諸公  
債利子現今ノ割合ヨリモ何程カ高等ヲラサルヘカラ  
ス若シ然ラサルハ人ハ皆既ニ其熟知シタル所ノ公  
債ノミニ其資本ヲ支用スルヲ望ムヘシ

而シテ現今ノ公債利子ハ其名價ニ對シテ六歩乃至七歩  
ナルモ証書ノ實價ハ名價百円ニ付七拾貳円乃至七拾  
五円ナルカ故ニ實際ノ所ハ元金百円ニ付八歩ト三分ノ  
一乃至九歩ト三分ノ一ニ當ル割合ヒナリ

然レモ政府ハ此新内國債ノ利子ニハ實際拂入ル、所

ノ元金ニ對シハ歩ト三分ノ一モ九歩五厘モ与フ可ラ  
ス寧口拂入レ高ヨ名價百圓ニ付キ七拾貳圓ト定メ此  
ニ六歩ノ利ヲ附シ而シテ銷還ノ期ニ至ラハ百圓ヲ拂  
フモノトスヘシ此即チ百圓ニ付六歩ノ利子ト云フモノ  
ニシテ實際ハ元金百圓ニ付キ八歩五厘ノ利子當ルナ  
リ  
債主ハ其拂ヒ込ミヲナスニ紙幣ノミヲ以テスヘケレハ  
利子ノ支拂モ亦タ紙幣ヲ以テスヘシ而シテ其支拂ヒ  
期限ハ日本現行ノ習慣ナル毎六ヶ月ヲ用ユヘシ

### 第二 銷還方法ノ事

日本ニ於テハ債主ニ於テ元金ノ銷還ヲ請求スルヲ能  
ハサル公債法ヲ未タ採用シタルトナク而シテ此ノ公債法元金ハ政府ノ  
都合ニ依リ何時ニテモ銷還スルノ法ナルヤモトス如シ

拙者ハ此際ニ於テ元金ヲ銷還セサル前公債法ノ採用  
アラントヲ癸議セサルヘシ蓋シ其法ハ一般ノ人氣ニ  
適セサル哉ヲ恐ルハカ故ナリ  
猶又若シ此ノ公債ヲシテ隨分近接シタル期限内ニ銷  
還スヘキモノトセハ其銷還ハ紙幣ヲ以テナラテハ行  
フヲ能ハサル可シ而シテ當時ニ於テ尚ホ如此ナラハ  
紙幣ノ引上ハ到底全カラサルモノナルヘシ  
故ニ今採用シ得ヘキ所ノ方案ハ左ノ如シ  
政府ハ仮令ハ十年ノ後ニ於テ紙幣ニテ元金ヲ銷還ス  
ルカ或ハ爾後正貨ニテ其利足ヲ支拂ヒ以テ銷還ヲ見  
合セ得ルノ法トナスヘシ又ハ政府ヲシテ此ノ方法ノ  
内ヲ選ハシムルノ代リニ債主ニ於テ十年ノ後ニハ紙  
幣ニテ其銷還ヲ請求シ若シクハ尚ホ暫ク元金ヲ据置

キ正債ニテ利足ヲ支拂ヒテ請求シ得ルノ法トナスモ可ナラン

蓋シ債主(人民)ヲシテ前方法ノ内ヲ撰ハシムル方公債ノ申込ヲ奨励スヘケレハ又政府ニ於テ此ノ點ノ觀察ハ忽セニスヘカラサルナリ

### 第三 證書種類ノ事

證書ハ歐州ノ慣例ニ從ヒ債主ノ望ミニ任シ記名或ハ無記名タルヲ得ヘシ但シ無記名ノ方其便益少ナカラサルナラン何トナレハ無記名證書ハ其取引ヲ為ス甚タ容易ニシテ且ツ利足ノ支拂モ亦タ簡便ナレハナリ無記名證書ノ遺失盜難等ノ憂ヒニ至テハ佛朗西其他ノ國ニ於テ現今使用スル所ノ注意法ニ據リ以テ之レカ豫防ヲナスヲ得ベシ

日本ニ於テハ甚タ無記名證券ヲ望マサルカ如シ何トナレハ無記名證書ハ外國人ヲシテ政府ノ債主タラシムルノ方法ナレハナリ然レモ外國人ヲシテ政府ノ債主タラシムルヲ以テ有害ト思考スル所ノモノハ却テ有益ナルノミナラス何レノ危難モナキナリ

而シテ其有益ナル所以ハ外國人ニ於テハ其ノ申込ヲ以テ政府ノ信憑ヲ再起セシムルニ助カスヘキノミナラス又既ニ申込済ニナリタル證書ヲモ購買スル所ハ所持人ノ手ニ於テ自然其價ヲ騰貴セシムルニ助カスヘシ

而シテ何レノ危難モ起ラサル所以ハ此ノ事ニ就キ外國人ハ決シテ其領事ノ裁判權ヲ請願スルコトナキニシテ理由アレハナリ即チ政府ニ於テハ其利足ヲ支拂フ

ニ於テ相違スルヲ無ク且時宜ニ依リ其元金ヲモ銷還  
スル是レ其一ニシテ後令此レニ就キ争論ノ起ルヲ  
ルモ日本政府ハ常ニ借主ト被告トヲ兼ヌルモノナル  
是レ其二ナリ

此ノ趣旨ハ既ニ曩ニ細論シタルヲ以テ今又爰  
ニ喋々再論スルヲ要セサルナリ  
無記名証書ノ緊要ナルヲハ此レヨリ左ニ論スル所  
正貨ヲ以テスル内國債募集ニ於テ策モ大ニナルモノ  
トス

第二 正貨ヲ以テ紙幣ノ一部宛ヲ漸次ニ引換  
ユルヲ

此ノ第二ノ事業ハ其目的タル通貨ヲシテ交易上需要

ノ高ヨリ減少セサラシムルニアルヲハ既ニ前章ニ於  
テ縷陳シタリ

拙者ハ又年々銷却スル所ノ紙幣五百万円中正貨ヲ以  
テ引換ユルハ其一半即チ貳百五十万円若シクハ其五  
分ノ二即チ貳百万円ニテ充分ナルヲモ陳述シタリ  
而シテ大蔵省ニ於テ其貯蔵スル所ノ正貨ヲ以テ十年  
間モ年々此引換ヘテ執行シ得ヘキハ慥カナリト雖モ  
大蔵省ニ於テ其貯蔵スル正貨ノ全部若クハ大ニナル  
部分ヲ手放ス片ハ夫レヨリ生スル所ノ不都合甚ク大  
ナラン

然ラハ此引換ニ必用ナル金額ヲ得ンニハ國債ニ依頼  
セサルヘカラス而シテ此ノ國債タル是レ又内國債ナ  
ラサル可ラサルナリ



内國債ニ依ルニ於テハ二ツノ利益アリトス其一日本  
ヲシテ外國人ニ對シ何レノ從屬ヲモ受ケサラシムル  
是レナリ何トナレハ若シ此ノ國債ヲシテ外債ナラシ  
ムルハニ於テ借主ハ無論債主ト同等ノ位置ニ在ラサ  
ル<sub>レ</sub>ト必然ナレバナリ其二内國債ニ依ルハ人民各個  
ニ於テ貯蔵スル正貨ノ再顯出ヲ獎勵スル<sub>レ</sub>アル是レ  
ナリ

此内國債ニ就キ猶又爰ニ第一利子ノ割合第二銷還ノ  
方法第三証書ノ種類等ハ如何スヘキ哉ヲ考査スヘシ

第一 利子ノ事

正貨ヲ以テスル此内國債利子ノ割合ハ紙幣ヲ以テス  
ル内國債利子ノ割合ヨリ別ニ多キ<sub>ト</sub>ヲモ<sub>ナ</sub>キ<sub>ト</sub>ヲモ  
要セサルナリ然レ<sub>レ</sub>其利子ノ支拂ニ至テハ債主ヨリ

拂<sub>レ</sub>込ミタル元金ノ銀貨若シクハ金貨ナルニ從<sub>レ</sub>銀  
貨若シクハ金貨ヲ以テスヘキハ勿論ナリトス  
故ニ此内國債ニハ實際ノ拂<sub>レ</sub>込高七拾貳圓乃至七拾  
五圓ニ付キ六歩ノ利子ヲ與<sub>フ</sub>ヲ得ヘシ然ラハ其割合  
實價百圓ニ付キ八歩ト三分ノ一乃至八歩五厘ノ利子  
ニ相當スヘキナリ

第二 銷還方法ノ事

拙者ハ爰ニ於ケルモ亦タ無期公債即チ債主ニ於テ元  
金ノ銷還ヲ請求スル<sub>レ</sub>能ハサル公債ノ創設アラレン  
トハ建議セサルナリ而シテ既ニ多少ノ困難ヲ有スル  
此事業ニ於テ其未タ用<sub>ヒ</sub>タル<sub>ト</sub>ナキ方法ヲ採用スル  
ハ畏避セサルベカラス且ツ今ヨリ一年乃至二年ノ後此ノ國  
債銷還ヲ執行セラル、時ニ於テ畫策スル所アルモ遲

カラサルナリ  
故ニ政府ハ其大蔵省ヨリ實價金價若シクハ銀貨七拾  
貳田乃至七拾五田ニテ六歩ノ利ヲ附シ即チ實價百田  
ニ付八歩若シクハ八歩ト三分ノ一乃至八歩五厘ノ利  
子ニ相當スル公債ヲ毎年発行セシムベシ  
而シテ其銷還ハ債主ニ於テ拂ヒ込ミヲ濟シタル日ヨ  
リ五ヶ年目ニ於テ始メニ拂ヒ込ミタル所ノ正貨ト同  
様ノ通貨ヲ以テ行フヘシ  
拙者ハ始メニ拂ヒ込ミタル元金ヨリ多クヲ銷還セサ  
ルヘカラサルノ理由ヲ別ニ發見セサルナリ歐州ニ於  
テ銷還ノ過與金ヲ与フルハ唯利子ノ低度ナルカ或ハ  
銷還ハ全ク政府ノ都合ニ因ルモノナルカノ時ノミニ  
限ルモノトス

然ルニ拙者ハ先キニ紙幣ヲ以テ内國債ヲ論スルハニ  
當テ實際拂込高ノ外ニ過與金ヲ与ヘ銷還ノ節ニハ名  
價百田ヲ悉皆支拂フヘシトシタルハ既ニ起業公債ノ  
節モ如斯アリシヲ以テナリ  
五ヶ年目ヨリ毎年順次ニ銷還セサルヘカラサルハニ  
至テハ紙幣モ仍ホ漸次ニ引換ヘサル<sup>可也</sup>故ニ之ニ必要  
ナル公債年々ノ発行高ニ猶ホ又初年ヨリ順次ニ発行  
シタル公債銷還ニ必要ナル丈ノ公債ヲ年々増加セサ  
ルヘカラサルナリ此時ニ至ラハ前ニ論シタル無期公  
債即チ債主ヨリ其元金ノ銷還ヲ請求スルヲ能ハスシ  
テ其銷還ハ全ク大蔵省ノ都合ニ因ル所ノ公債発行ヲ  
創ムルヲ能フヘシ

第三 證書種類ノ事

證書ハ債主ノ望ニ任シ記名若シクハ無記名タルヘシ  
而シテ無記名證書ハ緊要ナルハ紙幣ヲ以テスル國  
債ノ時ヨリモ爰ニ於テ取モ大ニナリトス何トナレハ  
此國債ニ於テハ外國資本ヲ招ク最モ利益アレハナリ  
此内國債ヨリ起ル所ノ困難ト外國ニ於テ取リ結フ所  
ノ外國債ヨリ起ル困難トハ大ナル差アリ此地ニ於テ  
ハ外國人ニ對シ殊<sup>特</sup>別ノ規約モナク而シテ此國債ニ依  
ルハ外國市場ニ於テ日本公債ノ下落スル等ノ恐レ  
モナク利子支拂ノタメ海外ニ正貨ヲ送致スルヲ要  
モナシ且ツ證書ノ果シテ外國人ノ掌中ニアルカモ知  
ラサルナリ  
無記名證書ノ創設ニ對シ人ノ為シ得ヘキ一ノ駁論アリ  
テ證書ノ無記名ナルハ公債ノ空相場即チ證書ナ

キ賣出シ又ハ此カ引取リヲ為スニ要用ナル資本ナキ  
定期買入レ等ノ方法ニ依ル此レヲ再言スレハ相場ノ  
差ヲ以テ目途トスル所ノ空相場ヲ獎勵スル等ノ事起  
ラサルカト云フ是レナリ  
果シテ若<sup>レ</sup>此ノ害アランニ此レヲ防クハ皆記名證書  
ノミトスルニアリ然レモ其時ニ於テハ外國資本ヲ除  
却セサランタメ公然ト外國人ニテモ内國債ニ其資本  
ヲ差出スヲ得ルノ許可ヲ与フヘシ  
而シテ此レカタメ別ニ外交上何レノ結約ヲモ要セサ  
ルナリ何トナレハ是レ全ク日本政府ヨリ外國人ニ對  
シ其随意ヲ以テ与フル所ノ恩惠ナレハナリ  
證書種類ノ事ニ就テハ今日歐州ニ於テ多ク用ユル所  
ノ一種ノ仕方アリ其法タル證書ノ元金丈ハ記名ナレ

氏利子ノ小札ハ無記名ナリトス故ニ是レヲ用ユルハ  
ニハ毎六ヶ月利子ノ支拂ハ甚タ簡易ナルヘシ

此ノ困難ナル問題ニ就キ其重ナル點ハ悉皆論究シタ  
リト思考スルカ故ニ此ノ意見書ハ爰ニ於テ其筆ヲ止  
ムベシ

猶又拙者ニ對シ新シキ駁論ノ出ツルヲアラハ何時ニ  
テモ答辨スヘク此意見書中論究シタル點ニ就テ令一  
層ノ解明ヲ要スルト認ムルニ於テハ亦タ是レヲモ為  
スヘシ

東京千八百八十年七月三十日

ボアソナード  
手署

